

令和5年度

3年次

シラバス

学習指導計画

滋賀県立瀬田工業高等学校 定時制課程

令和5年度 学習指導計画

教 科	科 目	学 年	単位数	学 期
地理・歴史	地理A	3年	2	通年

使用教科書	帝国書院 新地理A 二宮書店 基本地図帳改訂版			
副教材等	白地図	授業形態	(○)座学中心 ()実習中心 ()座学・実習併用	
学習の達成目標	グローバル化の進行に伴う、地域相互間のつながりや異文化に理解を深め、興味・関心を高める。そのために以下の①～④の理解を深める。①我々の生活が、国境の枠を超えた地域相互間のつながりによって、成立していること。②我々の住む地域社会において、国際化が進行していること。③世界諸地域の多様な地理的条件が、いかに多様で異質な社会・文化・産業を育んだか。④人類全体が直面している地球的規模の問題。			

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容	課 題 ・ 提 出 物 等	考 査
前 期	4	6	序章 学習の目的 1 地図帳の使い方 2 地球儀と地図について	地理Aの学習目的の理解 1 地図帳の索引や経度・緯度の使い方の演習。 2 用途に応じた様々な地図について学ぶ。	・授業プリント ・作業白地図	前期中間 前期末 考査
	5	8	第1章結びつく現代社会 1 人の流れ・交通 2 ものの流れ・世界の貿易 3 情報の流れ・通信 4 国家間の結合 5 世界の中の日本	1～5 自分たちの生活が、地球規模の人・もの・情報の流れなしには、成り立たないことを知る。 (並行して、学習内容に関わりのある統計資料 を使用して、統計の読み取り練習を行う。)		
	6	8	第2章人間生活を取り巻く環境 1 生活に影響を与える環境条件とは 2 人々の生活と地形 3 人々の生活と気候	1 自然環境や社会環境が自分たちの生活にどのように関わっているかを学ぶ。 2 自然環境の中で地形が生活にどのように関わっているかを学ぶ。 3 世界各地の生活は気候の違いによって異なっていることを学ぶ。		
	7	4				
後 期	10	8	第3章 世界の諸地域の生活・文化と環境 1 地形と気候 2 東南アジア 3 南アジア 4 西アジア・中央アジア 5 アフリカ 6 ヨーロッパ 7 アングロアメリカ 8 ラテンアメリカ 9 オセアニア	1 特に気候と衣食住との関わりに重点を置く。 2～9 以下の・印の国々に、特に焦点をあて各地域の産業・文化を中心とする地誌的特徴を学ぶ。 ・在日外国居住者の国籍の割合の多い国 ・国境を接している近隣諸国 ・貿易相手国として、高い割合を占めている国 ・G20諸国 (図書室での調べ学習を併用。)	・授業プリント ・作業白地図	後期中間 学年末 考査
	11	8				
	12	4				
	1	6	第4章 地球的課題 1 人口問題 2 食料問題 3 居住・都市問題 4 資源・エネルギー 5 地球環境問題	それぞれの、地球規模の課題が、日本の生活と密接に関わっていることを理解する。		
	2	6				
	3	4				

授業を受けるに当たって守ってほしい事項	必要な教材を忘れない。授業プリントはその時間中に仕上げる。プリントのわからない箇所は、調べたり周囲に聞いたりして、解答を探す。
確かな学力を身につけるためのアドバイス	・漢字はていねいに書く。・教科書は最後までしっかりと読む。 ・授業で取り組んでいる地域の、略地図を頭の中で描けるようにする。

備 考	学習項目等は随時見直し、変更する場合があります。
-----	--------------------------

令和5年度 学習評価規準・評価方法

<p>目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地図帳・統計表から、情報を読みとる力を身につける。 ・国際社会の実情を理解するための基礎的な事項についての知識の定着を図る。
<p>関心・意欲・態度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国際的な実情に目を向け、正しく理解し、また関心を持ち、その内容に関しての課題に意欲的に取り組んでいる。 ・環境や気候が異なることによって、国民の生活や考え方がどのように違うのかについて、探究しようとする。 ・生活や文化・考え方の異なる国・国民が積極的に認め合う。
<p>思考・判断・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地図・統計表・様々な記述から得た情報に基づいて、世界の国々の抱えている課題を探り、それに対しての特徴ある対応策を考察する。 ・日本及び日本人ができる国際的、または個別の国への課題対応策を考え、適切に説明・発表できる。
<p>資料活用 の技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習している国や国家、関連する地域に関して、それらを理解するため地図帳を適切に使いこなすことができている。 (地形・グラフ・統計など、記載されている内容を含む)
<p>知識・理解</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習している国や地域についての生活・文化を理解し、それらの国と日本の関係を過去・現在について基本的な繋がりを理解している。

令和5年度 学習指導計画

教 科	科 目	学 年	単位数	学 期
理科	化学基礎	3	2	通年

使用教科書	2 東京書籍 化基314 改訂 新編 化学基礎			
副教材等	プリント	授 業 形 態	() 座学中心 () 実習中心 (○) 座学・実習併用	
学 習 の 達成目標	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化へ関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理、法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。			

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容	課 題 ・ 提 出 物 等	考 査
前 期	4	6	1編 物質の構成 1章 物質の成分と構成元素 ① 物質の成分 ② 物質の構成元素 ③ 物質の三態	身近にある物質の分離精製法や成分を調べる観察実験を通して物質の成り立ちについて学ぶ。 物質の基本粒子について学ぶ。 原子の大きさや原子の構造について理解を深め、物質の粒子性について理解を深める。 物質の性質は電子配置によることが大きいことを理解し、法則性について学ぶ。 原子同士の結びつきについて学ぶ。 イオン結合、金属結合、共有結合の違いを理解し、化学という教科の基礎を理解する。	毎回配布したプリントは保存し、記入漏れがないこと。 提出物は完成させ、期限内に出すこと。	前 期 中 間 考 査
	5	8	2章 原子の構造と元素の周期表 ① 原子の構造 ② 電子配置と周期表			
	6	9	3章 化学結合 ① イオンとイオン結合 ② 分子と共有結合 ③ 金属と金属結合 ④ 化学結合と物質の分類			
後 期	10	8	2編 物質の変化 1章 物質と化学反応式 ① 原子量・分子量・式量 ② 物質量 ③ 溶液の濃度 ④ 化学反応式とその量的関係	物質を定量的に扱う術を学ぶ。 目に見えない原子などの粒子を定量的に扱う工夫と物質量と粒子の数、質量および体積の関係性を理解する。 化学反応式の作成法を理解し、係数と物質量の関係性を知る。 身近な化学反応である中和反応を理解する。 酸塩基の強弱や中和反応を定量的な視点より理解する。 身近な化学反応である酸化還元反応を電子の授受の点より理解する。 酸化還元反応の応用である電池の構造について理解する。	毎回配布したプリントは保存し、記入漏れがないこと。 提出物は完成させ、期限内に出すこと。	後 期 中 間 考 査
	11	9	2章 酸と塩基 ① 酸と塩基 ② 水素イオン濃度とpH ③ 中和反応と塩 ④ 中和滴定			
	12	5	3章 酸化還元反応 ① 酸化と還元 ② 酸化剤と還元剤 ③ 金属の酸化還元反応 ④ 酸化還元反応の応用			

授業を受けるに当たって守ってほしい事項	授業に出席し、参加すること。授業プリントを完成させること。
確かな学力を身につけるためのアドバイス	常日頃からまわりに関心をもつように心がけること。

備 考	学習項目は前後することがあります。
-----	-------------------

令和5年度 学習評価規準・評価方法

目標	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化へ関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理、法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。
----	---

関心・意欲・態度	自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身につけている。	具体的評価	取組姿勢
			提出物
思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現できる。	具体的評価	取組姿勢
			提出物
			実験レポート
			定期考査
技能	観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身につけている。	具体的評価	取組姿勢
			実験レポート
知識・理解	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。	具体的評価	定期考査
			提出物

令和5年度 学習指導計画

教 科	科 目	学 年	単位数	学 期
保健体育	体育	3	3	通年

使用教科書	保体305 大修館 最新高等保健体育 改訂版			
副教材等	なし	授業形態	()座学中心 (○)実習中心 ()座学・実習併用	
学習の達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう自ら進んで運動し、公正・協力・責任などの態度を身につけさせるとともに、健康・安全に留意して運動できる資質や態度を育成する。 ・心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質や能力を育成する。 			

	月	学 習 項 目	学 習 内 容	課題・提出物等	考 査
前 期	4	3 体育理論	スポーツの歴史、文化的特性について学ぶ。	毎時間、学習プリントを提出する。	なし
		6 体づくり運動	体ほぐしの運動		
	5	6 陸上競技	短距離走・投てき		
		6 器械運動	マット運動・跳び箱運動		
	6	21 選 ・球技（ゴール型） ・球技（ネット型） 択 ・ダンス	バスケットボール バドミントン 現代的なリズムのダンス		
	7	3 体育理論	オリンピックについて学ぶ。		
	9	6 体づくり運動	体力を高める運動		
後 期	10	29 選 ・球技（ネット型） ・球技（ネット型） ・球技（ゴール型） 選 ・武道	バレーボール テニス サッカー 柔道	毎時間、学習プリントを提出する。	なし
	11				
	12				
	1	3 体育理論	現代スポーツについて学ぶ。		
	7	球技（ゴール型）	サッカー		
	2	15 球技（ネット型）	卓球		
授業を受けるに当たって守ってほしい事項			<ul style="list-style-type: none"> ・授業の最初と最後に点呼をするため、決められた場所に整列してください。 ・体育実技は、安全に配慮して実施します。楽しく運動に取り組める環境づくりをするので指示に従うこと。 		
確かな学力を身につけるためのアドバイス			体育実技の基礎・基本は、運動に親しみ、仲間と楽しく体を動かす喜びを感じてもらえる場づくりをします。技術の向上は、運動が楽しいと思えるかどうかにかかっています。ルールとマナーを守り、安全・安心・楽しい体育の授業となるようみなさんでいい雰囲気をつくりましょう。		

備 考	
-----	--

令和5年度 学習評価規準・評価方法

目標	体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。
----	---

技能・知識	<p>運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。</p> <p>①運動の特性に応じた技能を、練習や競技を通して身につけている。 ②自分の課題に応じた練習や競技を行い、技能を高めることができる。 ③運動の学習や進め方を理解している。 ④競技のルールや審判の方法を理解している。</p>	具体的評価	十分満足できると判断（程度高）	5
			十分満足できると判断	4
			おおむね満足できると判断	3
			努力を要すると判断	2
			一層努力を要すると判断	1
思考・判断・表現	<p>生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他人に伝える力を養う。</p> <p>自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫している。</p> <p>①能力に適した課題を設定して取り組んでいる。 ②課題解決のための効果的な練習を設定し取り組んでいる。 ③個々の技術に対し、理想のイメージを作ることができる。</p> <p>自分が考えていることを、仲間にことばや動作で伝えたり、仲間の考えていることを聴き、理解しようとしている。</p> <p>①自分の考えを表現できる。 ②仲間の考えを聴くことができる。</p>	具体的評価	十分満足できると判断（程度高）	5
			十分満足できると判断	4
			おおむね満足できると判断	3
			努力を要すると判断	2
			一層努力を要すると判断	1
主体的に学習に取り組む態度	<p>運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。</p> <p>①自ら進んで運動に取り組んでいる。 ②仲間と協力して取り組んでいる。 ③指示を守り安全に注意して取り組んでいる。</p>	具体的評価	十分満足できると判断（程度高）	5
			十分満足できると判断	4
			おおむね満足できると判断	3
			努力を要すると判断	2
			一層努力を要すると判断	1

令和5年度 学習指導計画

教 科	科 目	学 年	単位数	学 期
芸術	美術 I	3	2	通年

使用教科書	光村304 美術1			
副教材等	課題によりその都度準備	授業形態	() 座学中心 (○) 実習中心 () 座学・実習併用	
学習の達成目標	既成概念にとらわれずに自由な発想を養う。何かを生み出すことの楽しさを知る。			

学期	月	時数	学 習 項 目	学 習 内 容	課題・提出物等	考 査
前 期	4	8	・消しゴムスタンプ	自分のマークを考え、文字と絵柄で構成する。これから作る作品に利用する。	消しゴム1個	
	5	8	・イメージデッサン	テーマ「絆」鉛筆と色鉛筆、水彩などでデッサンする。	デッサン2枚以上	
	6	8	・鑑賞・表現	西洋美術について鑑賞し、感想をまとめ、木彫等の表現に活かす。	おのおのの設定した大きさ1個	
	7	6	・木彫	木の廃材を利用して、構成する。		
9	5	↓	絵の具など様々なものをくっつけて彫刻する。			
後 期	10	7	↓			
	11	8	・絵てがみ	友達、あるいは未来の自分に、今の自分のメッセージを水彩で構成する。	手紙1枚	
	12	6	・鑑賞・表現	日本美術について鑑賞し、感想をまとめ、木版画等の表現に活かす。	版1枚	
	1	6	・木版画	桜の廃材を利用し、版木にして自然の美しさを知る。作られた物ではなく、目の前の自然を発見する。		
	2	6	・紙粘土 彫塑	自然のある部分を探し出して、カタチを作り出す。(葉っぱ、根、石ころ、など宇宙的なイメージを感じる素材)		彫塑1個
3	2	・鑑賞	現代美術について鑑賞し、感想をまとめる。			
授業を受けるに当たって守ってほしい事項			課題は必ず完成させて提出すること。 一人一人の作品を大切に思う心をもつこと。			
確かな学力を身につけるためのアドバイス			じっくり考えて、自分のものさしで考え、創り出すこと。			

備 考	
-----	--

令和5年度 学習評価規準・評価方法

目標	幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。また、既成概念にとらわれない自由な発想を養い、何かを生み出すことの楽しさを知る。
----	---

美術への関心・意欲・態度	作品の制作に関心を持ち、意欲的に制作する態度を身につけている。	具体的評価	取組姿勢
発想や構想の能力	作品を制作する過程において、感性を働かせ、豊かに発想し創造的に表現を工夫することができる。	具体的評価	課題作品
創造的な技能	作成するものを構想し、材料・用具を生かして表現することができる。	具体的評価	課題作品
鑑賞の能力	参考作品や友人の作品の制作意図や工夫に気づき、機能と美しさの調和を味わうことができる。また、西洋や日本、現代美術について鑑賞し、感想を話すことができる。	具体的評価	作品評価会での取組

令和5年度 学習指導計画

教 科	科 目	学 年	単位数	学 期
職 業	職業一般	3	2	通年

使用教科書	自作教材			
副教材等	なし	授 業 形 態	() 座学中心 () 実習中心 (○) 座学・実習併用	
学 習 の 達成目標	実務による勤労体験を積極的に評価することにより、働きながら学ぶ定時制生徒の学習負担軽減と就労意欲の高揚をはかり、併せて望ましい勤労観と職業観の育成をめざす。			

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容	課 題 ・ 提 出 物 等	考 査
前 期	4	8	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職業一般について ・ 年間指導計画 ・ 自己目標など 	所定のレポート用紙にて提出	考 査 は 実 施 し な い
	5	8	講義①「履歴書について、書き方」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就職について、必要な履歴書の書き方を身につけさせる。 ・ 講義①についてレポートをまとめる。 	所定のレポート用紙にて提出	
	6	8	演習「レポート①」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 面接での印象の大切さ。また服装や言葉遣い髪型などについても理解させる。 ・ 講義②についてレポートをまとめる。 	所定のレポート用紙にて提出	
	7	6	演習「レポート②」 職場訪問①	<ul style="list-style-type: none"> ・ VTRを視聴することによって、より理解を深める。 ・ 講義③についてレポートをまとめる。 	VTRの感想等 所定のレポート用紙にて提出	
	9	5	講義③「社会人に必要な基礎的なマナーのVTRの視聴」 演習「レポート③」 職場訪問①	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職場での勤務状況について（雇用主との懇談、実務見学等） 	所定のレポート用紙にて提出	
後 期	10	7	講義④「社会人にふさわしい服装と身だしなみ」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職場に応じた服装や身だしなみの必要性について理解させる。 ・ 講義④についてレポートをまとめる。 	所定のレポート用紙にて提出	考 査 は 実 施 し な い
	11	8	演習「レポート④」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 挨拶の大切さについて理解させる。また社会人としてふさわしい言葉遣いについても理解させる。 ・ 講義⑤についてレポートをまとめる。 	所定のレポート用紙にて提出	
	12	6	演習「レポート⑤」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職場にはそれぞれマナーというものが存在し、それを理解したうえで仕事をする事の大切さを理解させる。 ・ 講義⑥についてレポートをまとめる。 	所定のレポート用紙にて提出	
	1	6	講義⑥「社内でのマナー」 演習「レポート⑥」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職場での勤務状況について（雇用主との懇談、実務見学、評価の依頼等） 	所定のレポート用紙にて提出	
	2	6	職場訪問②			
	3	2	まとめ			
	授業を受けるに当たって守ってほしい事項			各テーマのねらいをしっかりと理解し、勤労を通して多くのことを学んでほしい。		
確かな学力を身につけるためのアドバイス			何事も実践から学ぶことが多い。壁にぶつかったときはいろいろな人の考えを参考にして、自分の考えをまとめていこう。			

備 考	
-----	--

令和5年度 学習評価規準・評価方法

目 標	実務による勤労体験を積極的に評価することにより、働きながら学ぶ定時制生徒の学習負担軽減と就労意欲の高揚をはかり、併せて望ましい勤労観と職業観の育成をめざす。
--------	--

関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度	働くということにおいて関心を持ち、その充実・向上を目指して意欲的に取り組むとともに、課題を見つけ、その解決を目指して思考を深め工夫し創造する能力を身につけている。	具 体 的 評 価	取組姿勢
			レポート
思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	将来自分が就きたい職業に従事するには、どのようにすればよいかということに意欲的に取り組み、実践的な態度を身につけている。	具 体 的 評 価	取組姿勢
			レポート
技 能	職業全般に関する基礎的・基本的な知識を身につけている。	具 体 的 評 価	取組姿勢
			レポート
知 識 ・ 理 解	職業全般に関する基礎的・基本的な知識を身につけている。	具 体 的 評 価	取組姿勢
			レポート

令和5年度 学習指導計画

教 科	科 目	学 年	単位数	学 期
工業	課題研究	3	4	通年

使用教科書	なし			
副教材等	なし	授 業 形 態	() 座学中心 (○) 実習中心 () 座学・実習併用	
学 習 の 達成目標	工業に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。			

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容	課 題 ・ 提 出 物 等	考 査	
前 期	4	8	1 オリエンテーション	1 課題研究において学習するスタイルやテーマについてのオリエンテーション	その日一日の取り組み状況等の報告書を毎回必ず提出すること。		
	5	16	2 テーマの設定	2 個人またはグループごとにテーマの設定			
	6	16	3 計画・実行	3 個人またはグループごとに計画・実行			
	7	12	4 ・製作 ・調査 ・研究 ・実験	4 個人またはグループごとに取り組む テーマ例 【機械類型】 ① 溶接を利用したものづくり ② 旋盤・フライス盤・マシニングセンタ を利用してのものづくり ③ 砂型鋳造法による作品製作 など			
	9	16	5 前期中間まとめ	【電気類型】 ① 様々な資格取得に向けた取り組み ② シーケンス技術（無接点リレー） ③ 電子情報技術 ④ 電気工事（ものづくり大会へ向けて） など			
後 期	10	16	6 ・製作 ・調査 ・研究 ・実験	6 個人またはグループごとに取り組む。	その日一日の取り組み状況等の報告書を毎回必ず提出すること。		
	11	16					
	12	8	7 資料製作（まとめ）	7 ここまでの取り組みの成果などをまとめ、発表用資料の作成をおこなう。			
	1	12					
	2	12					
			授業を受けるに当たって守ってほしい事項	実習服・実習靴・実習帽は必ず着用のこと。また、安全に関わる諸注意は厳守してください。レポートやノートの整理が有りますので、教科書、筆記具を用意すること。			
			確かな学力を身につけるためのアドバイス	1・2年生で学んだ基礎・基本を大事にし、教員の指導に対して常に関心を持って取り組むこと。			

備 考	欠席した場合、追実習等を行う。日程についてはその都度連絡をする。 レポートの未提出は認められないので、必ず提出すること。
-----	---

令和5年度 学習評価規準・評価方法

目標	工業（機械・電気）に関する基礎的技術を実習・実験によって体験させ、機械類型・電気類型における技術への興味・関心を高め、工業の意義や役割を理解させるとともに、機械類型・電気類型に関する広い視野を養い、工業の発展を図る意欲的な態度を育てる。
----	--

関心・意欲・態度	<p>機械類型・電気類型に関する基礎的技術について関心を持ち、その改善・向上を目指して意図的に取り組むとともに、社会の発展を図る創造的、実践的な態度を身につけている。</p>	具体的評価	<p>取組姿勢</p> <p>レポート内容</p> <p>出欠</p>
思考・判断・表現	<p>機械類型・電気類型に関して広い視野から自ら考え、基礎的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身につけ、その成果を的確に表現する。</p>	具体的評価	<p>取組姿勢</p> <p>レポート内容</p>
技能	<p>機械類型・電気類型に関する基礎的な技術を身につけ、安全や環境に配慮し、実際に仕事を合理的に計画し、適切に処理する。</p>	具体的評価	<p>取組姿勢</p> <p>服装</p> <p>作品完成頻度</p>
知識・理解	<p>機械類型・電気類型に関する基礎的な知識を身につけ、工業の発展と環境との調和の取れた在り方や現代社会における工業の意義や役割を理解している。</p>	具体的評価	<p>レポート（考察）</p>

令和5年度 学習指導計画

教 科	科 目	学 年	単位数	学 期
工業	通信技術	3	2	通年

使用教科書	通信技術（実教出版）			
副教材等	なし	授業形態	○ 座学中心 () 実習中心 () 座学・実習併用	
学習の達成目標	通信技術に関する基礎的な知識と技術を習得させ、実際に活用する能力を育てる。			

学期	月	時数	学 習 項 目	学 習 内 容	課題・提出物等	考 査
前 期	4	5	有線通信 ・ 電話機 ・ 通信の多重方式 無線通信 ・ 電波とアンテナ	・ 電話機(ダイヤル式、押しボタン式、電子式など)の原理と基本的な構成などについて学ぶ。 ・ 交換機において、多数の通話を同時に行う場合の伝送方式について学ぶ。	定期考査ごとに ノートファイルを提出	前 期 中 間 考 査
	5	6				
	6	8				
後 期	7	6	有線通信 ・ 光通信 ・ 有線通信に関する法規 無線通信 ・ 無線通信システム ・ 無線通信、おもな無線機器 通信関連法規	・ 無線通信に使われている電波の発生と伝わり方空間の電波をとらえるアンテナについて学ぶ。 ・ 光通信の光の発生、検出および通信方式について学ぶ。 ・ 無線機器は定められた法令について学ぶ。 (電気通信事業法、有線電機通信法など) ・ 変調、復調の利用。AM、FM、SSB送受信機などの具体的な機器の構成について学ぶ。 ・ 通信と法規・電気通信事業に関する法規 電波を利用するときに適用される法令について学ぶ。	定期考査ごとに ノートファイルを提出	後 期 中 間 考 査
	9	7				
	10	7				
	11	8				
後 期	12	6	有線通信 ・ 光通信 ・ 有線通信に関する法規 無線通信 ・ 無線通信システム ・ 無線通信、おもな無線機器 通信関連法規	有線通信 ・ 電話機(ダイヤル式、押しボタン式、電子式など)の原理と基本的な構成などについて学ぶ。 ・ 交換機において、多数の通話を同時に行う場合の伝送方式について学ぶ。	定期考査ごとに ノートファイルを提出	後 期 期 末 考 査
	1	6				
	2	7				
	3	4				
授業を受けるに当たって守ってほしい事項			積み重ねの学習なので、各単元しっかりと復習をすること。 計算問題が数多くあるので、関数電卓を持参すること。			
確かな学力を身につけるためのアドバイス			分からないところをそのままにしておかず、必ず聞くこと。			

備 考	
-----	--

令和5年度 学習評価規準・評価方法

目標	通信技術に関する基礎的な知識と技術を習得させ、実際に活用する能力を育てる。
----	---------------------------------------

関心・意欲・態度	通信技術に関する基礎的な知識と技術について関心を持ち、その改善・向上を目指して意図的に取り組むとともに、社会の発展を図る創造的、実践的な態度を身に付けている。	具体的評価	取り組み姿勢 ノートファイルの整理内容 出席状況
思考・判断・表現	通信技術に関する諸問題の適切な解決を目指して広い視野から自ら考え、基礎的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けるとともにその成果を的確に表現する。	具体的評価	取り組み姿勢 ノートファイルの整理内容 定期考査
技能	通信技術に関する基礎的な技術を身に付け、安全や環境に配慮し、実際の仕事を合理的に計画し、適切に処理する。	具体的評価	取り組み姿勢 定期考査
知識・理解	通信技術に関する基礎的な知識を身に付け、通信技術の発展と環境との調和の取れた在り方や現代社会における通信の意義や役割を理解している。	具体的評価	ノートファイルの整理内容 定期考査

令和5年度 学習指導計画

教 科	科 目	学 年	単位数	学 期
工業	製図（機械類型）	3	2	通年

使用教科書	製図(実教出版307)			
副教材等	なし	授 業 形 態	() 座学中心 () 実習中心 (○) 座学・実習併用	
学 習 の 達成目標	製図に関する基礎的な知識と技術を習得させ、製作図、設計図などを正しく読み、図面を構想し作成する能力と態度を育てる。			

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容	課 題 ・ 提 出 物 等	考 査
前 期	4	4	手描き製図	ドラフターの使い方 手書き図面の描き方 各種図形等の製図 ・直線 ・円・円弧 ・多角形 ・投影図 ・等角図	時間中に与えられた課題については、必ず仕上げて提出すること。	前期期末考査
	5	6				
	6	8				
	7	6				
	9	6				前期期末考査
後 期	10	8	CAD製図	CADシステムの概要 基本操作・応用操作 ・CADの基本的な操作 ・線分・長方形・円の描画 ・図形の編集 ・寸法表記 機械要素の製図 ・ねじ ・軸 ・軸受け ・歯車 ・各種部品 ・組立図	時間中に与えられた課題については、必ず仕上げて提出すること。	後期中間考査
	11	8				
	12	4				
	1	8				
	2	8				
	3	4				
					学年末考査	

授業を受けるに当たって守ってほしい事項	毎時間、教科書を忘れず持参すること。 課題は、必ず完成させること。
確かな学力を身につけるためのアドバイス	製図をする場合、「正しく」・「明瞭」・「迅速」ということが大切である。 自ら学ぶということを忘れずに積極的に技術の習得に努めること。

備 考	作品が未完成の者は補習を行う。日程についてはその都度連絡する。
-----	---------------------------------

令和5年度 学習評価規準・評価方法

目 標	製図に関する基礎的な知識と技術を習得させ、製作図、設計図などを正しく読み、図面を構想し作成する能力と態度を育てる。
--------	---

関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度	製図に関する基礎的技術について関心を持ち、意欲的に学習する態度を身に付けている。	具 体 的 評 価	取り組み状況
			プリント・課題作品の内容
			出席状況
思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	図面を作成する過程において頭に浮かんだ概念の具象化を図り、想像力を高め、内容を吟味し、作成した図面によって思考を深めることができる。 また、図面を作成した側の考えを図面によって正確かつ明瞭に表現することができる。	具 体 的 評 価	定期考査
			課題作品
技 能	製作する部品や製品の図面を構想し、作成する能力を持っている。	具 体 的 評 価	プリントの内容
			定期考査
			課題作品
知 識 ・ 理 解	日本工業規格（JIS）における基礎製図及び機械分野に関する製図について基礎的な知識と技術を身に付けている。	具 体 的 評 価	定期考査
			課題作品

令和5年度 学習指導計画

教 科	科 目	学 年	単位数	学 期
工業	機械工作	3	1	通年

使用教科書	機械工作2（実教出版316）			
副教材等	なし	授 業 形 態	（○）座学中心 （ ）実習中心 （ ）座学・実習併用	
学 習 の 達成目標	工業製品の基本的な加工方法を理解して、適切な活用能力を身に付ける。			

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容	課 題 ・ 提 出 物 等	考 査
前 期	4	2	1. 切削加工	1. 切削加工と切削工具 切削加工のあらまし 工作機械と切削工具 工作機械と切削工具の運動 おもな工作機械と切削工具 切削工具 切削条件の選定 切削速度の求めかた 送り量と送り速度の求めかた 切込み	時間中に与えられた課題については必ず仕上げた後、提出すること。	前期 中間 考査
	5	4				
	6	4				
	7	3				
	9	3				
後 期	10	3	切削加工	切削理論 切削のしくみと切りくずの形態 切削による熱の発生 構成刃先とびびり振動 切削油剤 材料の被削性 工作機械の構成と駆動装置 工作機械の構成 工作機械の駆動装置 その他の切削工作機械 中ぐり盤 ブリーチ盤 歯切り盤	時間中に与えられた課題については必ず仕上げた後、提出すること。	後期 中間 考査
	11	4				
	12	3				
	1	3				
	2	4				
	3	2				
授業を受けるに当たって守ってほしい事項			毎時間授業に出席し、課題に取り組む。与えられた課題は完成させて提出する。			
確かな学力を身につけるためのアドバイス			他の教科や実習、私生活の中で身に付けた知識と関連付けながら、理解して覚える。向上心を持って取り組むことが大切である。			

備 考	欠席した授業についても、課題を完成させて提出すること。
-----	-----------------------------

令和5年度 学習評価規準・評価方法

目標	工業製品の基本的な加工方法を理解して、適切な活用能力を身に付ける。
----	-----------------------------------

関心・意欲・態度	機械加工に関する基礎的技術について関心を持ち、意欲的に学習する態度が身に付いている。	具体的評価	取組姿勢
			課題プリント
思考・判断・表現	機械加工に関する基礎的知識を身に付け、加工法の特徴を適切に活かすことができる。	具体的評価	課題プリント
			定期考査
技能	加工方法の特徴を理解し、生産現場や実際の使用現場に対応できる技能が身に付いている。	具体的評価	課題プリント
			定期考査
知識・理解	機械加工に関する基礎的知識を身に付いている。	具体的評価	課題プリント
			定期考査

令和5年度 学習指導計画

教 科	科 目	学 年	単位数	学 期
工業	機械設計	3	1	通年

使用教科書	新機械設計（実教出版318）			
副教材等	なし	授 業 形 態	(○) 座学中心 () 実習中心 () 座学・実習	
学 習 の 達成目標	機械設計に関する基礎的な知識と技術を習得させ、器具、機械などを創造的、合理的に設計する能力を育てる。			

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容	課 題 ・ 提 出 物 等	考 査
前 期	4	2	機械と設計	機械のしくみ	毎回の授業の終了ごとにノートを提出。	前期 中間 考査
	5	4		機械要素と標準化		
	6	4		機械設計		
	7	3		機械に働く力と仕事		
後 期	9	3	材料の強さと使いかた	機械の運動	毎回の授業の終了ごとにノートを提出。	後期 中間 考査
	10	3		仕事と動力		
	11	4		摩擦と機械の効率		
	12	3		材料の機械的性質		
	1	3		引張り・圧縮を受ける部材の強さ		
	2	4				
3	2		学年 末 考査			

授業を受けるに当たって守ってほしい事項	板書したものは全て書き写し、欠席した場合は必ず書き写しておくように。ノートや課題の提出は必ず期限を守ること。
確かな学力を身につけるためのアドバイス	自ら学ぶということを忘れずに毎回の授業に取り組むこと。

備 考	欠席者はプリント等の資料を取りにくること。また、考査前にはノート整理をしておくこと。毎時間授業終了後、ノートを必ず提出すること。ノートの未提出は認められないので、必ず提出すること。
-----	--

令和5年度 学習評価規準・評価方法

<p>目標</p>	<p>機械設計に関する基礎的な知識と技術を習得させ、器具、機械などを創造的、合理的に設計する能力を育てる。</p>		
<p>関心・意欲・態度</p>	<p>設計に関する基礎的知識に関心を持ち、意欲的に学習する態度を身に付ける。</p>	<p>具体的評価</p>	<p>取組姿勢 ノート内容 提出状況 出欠</p>
<p>思考・判断・表現</p>	<p>必要な働きをするように機械構造を考えて、各部分の形状・寸法・材料・加工法などを決め、製作に必要な過程において頭に浮かんだ概念の具象化を図り、想像力を高め、内容を吟味し、図面によって思考を深めることができる。</p>	<p>具体的評価</p>	<p>ノート内容 プリント課題 定期考査</p>
<p>技能</p>	<p>設計に必要な計算を正確かつ明瞭に表現することができる。また迅速に伝達する技術を持っている</p>	<p>具体的評価</p>	<p>ノート内容 プリント課題 定期考査</p>
<p>知識・理解</p>	<p>機械にかかる力を分析し、かつ、それらのことを迅速に解決する基礎的な知識と技術を身に付けている。</p>	<p>具体的評価</p>	<p>ノート内容 プリント課題 定期考査</p>

令和5年度 学習指導計画

教 科	科 目	学 年	単位数	学 期
工業	製図（電気類型）	3	1	通年

使用教科書	製図（実教出版）			
副教材等	なし	授 業 形 態	（ ）座学中心 （ ）実習中心 (○)座学・実習併用	
学 習 の 達成目標	屋内配線図に関する基礎的な知識と技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を育てる。 CADシステムを活用する能力を習得させる。			

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容	課 題 ・ 提 出 物 等	考 査
前 期	4	2	・単線図・複線図	単線図を方眼紙及びプリント等を用いて、書く練習をする。 単線図を複線図に書き換える練習をする。 ・単純な回路 ・わたり線のある回路 ・パイロットランプのある回路	時間中に与えられた課題については、必ず仕上げて提出すること ※前期中間考査は行わず、毎時間の課題の取り組み状況や成果により評価する。	実施しない
	5	3				
	6	4				
期	7	3	・屋内配線図記号	単線図を複線図に書き換える練習をする。 ・三路スイッチのある回路 ・四路スイッチのある回路 屋内配線に用いる器具の名称及び図記号について学習する。		前期中間考査
	9	3				
後 期	10	4	・CAD製図 CADの基本機能の利用	CADの基本機能の利用について学習する。 基本的なパソコン操作の復習 CADソフトの起動と終了 線分・円の作図 図面の印刷	時間中に与えられた課題については、必ず仕上げて提出すること ※後期中間考査は行わず、毎時間の課題の取り組み状況や成果により評価する。	後期中間考査
	11	4				
	12	2				
期	1	4	・屋内配線図	屋内配線図を住宅の図面に用いて、方眼紙及びプリント等を書く練習をする。		後期中間考査
	2	4				
	3	2				

授業を受けるに当たって守ってほしい事項	毎時間、教科書を忘れず持参すること。 課題は、必ず完成させること。
確かな学力を身につけるためのアドバイス	製図をする場合、「正しく」・「明瞭」・「迅速」ということが大切である。 自ら学ぶということを忘れずに積極的に技術の習得に努めること。

備 考	
-----	--

令和5年度 学習評価規準・評価方法

目 標	<p>製図に関する日本工業規格及び各専門分野の製図について基礎的な知識と技術を習得する。</p> <p>製作図、設計図など正しく読み、図面を構成し製作する能力と態度を身に付ける。</p>
--------	---

関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度	<p>電気製図の各分野に関する基礎的技術について関心を持ち、その改善・向上を目指して意図的に取り組むとともに、社会の発展を図る創造的、実践的な態度を身に付けている。</p>	具 体 的 評 価	<p>取り組み姿勢</p> <p>ファイル・プリントの内容</p> <p>出席状況</p>
思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	<p>電気製図に関して広い視野から考え、基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けている。 また、図面を制作した側の考えを図面によって正確かつ明瞭に表現することができる。</p>	具 体 的 評 価	<p>定期考査</p> <p>課題作品</p>
技 能	<p>配線する図面を想像し、製作する能力を持っている。</p>	具 体 的 評 価	<p>ファイル・プリントの内容</p> <p>定期考査</p> <p>課題作品</p>
知 識 ・ 理 解	<p>電気製図に関する基礎的な知識を身に付け、工業の発展と環境との調和のとれたあり方や現代社会における工業の意義や役割を理解している。</p>	具 体 的 評 価	<p>定期考査</p> <p>課題作品</p>

令和5年度 学習指導計画

教 科	科 目	学 年	単位数	学 期
工業（電気類型）	電気基礎	3	3	通年

使用教科書	電気基礎 1、2（実教出版）			
副教材等	なし	授業形態	(○) 座学中心 () 実習中心 () 座学・実習併用	
学習の達成目標	電気、特に交流に関する基礎的な知識と技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を育てる。			

学期	月	時数	学 習 項 目	学 習 内 容	課題・提出物等	考 査
前	4	6	交流の基礎 ・ 正弦波交流 ・ 角周波数 ・ 交流の表し方	・ 交流の性質を理解する。 ・ 交流の表し方の各種方法について理解する。	定期考査後のノートファイルの提出は必ずすること。	前 期 中 間 考 査
	5	8				
	6	9				
期	7	6	RLCの働き ・ 位相差とベクトル ・ RLC単独回路	・ R, L, Cの基本回路の性質を基にして、R, L, Cの二つ以上の並列回路の性質や働きを調べる。	定期考査後のノートファイルの提出は必ずすること。	前 期 期 末 考 査
	9	6				
後	10	8	RLCの働き ・ 直列回路 ・ 並列回路	・ 直列に接続した回路に交流電圧を加えた時の流れる電流などについて調べる。 ・ 並列に接続した回路に交流電圧を加えた時の流れる電流などについて調べる。	定期考査後のノートファイルの提出は必ずすること。	後 期 中 間 考 査
	11	8				
	12	6	交流の電力 ・ 交流の電力と力率 ・ 皮相電力、有効電力、無効電力	・ 適宜例題、問で記号法により交流回路を計算する基礎を学習する。		
	1	6	三相交流の基礎 ・ 三相交流の発生 ・ 三相交流の表し方	・ 2本以上必要な交流回路の基礎を学習する。	定期考査後のノートファイルの提出は必ずすること。	
2	4					
3	3					
授業を受けるに当たって守ってほしい事項			各単元ごとの予習・復習をしておくこと。計算問題がでてくるので、毎回必ず電卓を忘れず持参すること。			
確かな学力を身につけるためのアドバイス			ノート整理をしっかりと、学んだ内容を確認しながら学習を進めるとよい。			

備 考	学習の習熟状況により、適宜進行度合い・学習内容を変更することがある。 交流に関する計測の基礎の単元は実習で学習しているので省略する。
-----	---

令和5年度 学習評価規準・評価方法

目標	電気、特に交流に関する基礎的な知識と技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を育てる。
----	---

関心・意欲・態度	電気に関する基礎的な知識と技術について関心を持ち、その改善・向上を目指して意図的に取り組むとともに、社会の発展を図る創造的、実践的な態度を身に付けている。	具体的評価	<table border="1"> <tr><td>取組姿勢</td></tr> <tr><td>ノートファイルの整理内容</td></tr> <tr><td>出席状況</td></tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> </table>	取組姿勢	ノートファイルの整理内容	出席状況		
取組姿勢								
ノートファイルの整理内容								
出席状況								
思考・判断・表現	電気に関して広い視野から自ら考え、基礎的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付け、その成果を的確に表現する。	具体的評価	<table border="1"> <tr><td>取組姿勢</td></tr> <tr><td>ノートファイルの整理内容</td></tr> <tr><td>定期考査</td></tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> </table>	取組姿勢	ノートファイルの整理内容	定期考査		
取組姿勢								
ノートファイルの整理内容								
定期考査								
技能	電気に関する基礎的な技術を身に付け、安全や環境に配慮し、実際の仕事を合理的に計画し、適切に処理する。	具体的評価	<table border="1"> <tr><td>取組姿勢</td></tr> <tr><td>定期考査</td></tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> </table>	取組姿勢	定期考査			
取組姿勢								
定期考査								
知識・理解	電気機器に関する基礎的な知識を身に付け、電気技術の発展と環境との調和の取れた在り方や現代社会における電気の意義や役割を理解している。	具体的評価	<table border="1"> <tr><td>ノートファイルの整理内容</td></tr> <tr><td>定期考査</td></tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> </table>	ノートファイルの整理内容	定期考査			
ノートファイルの整理内容								
定期考査								